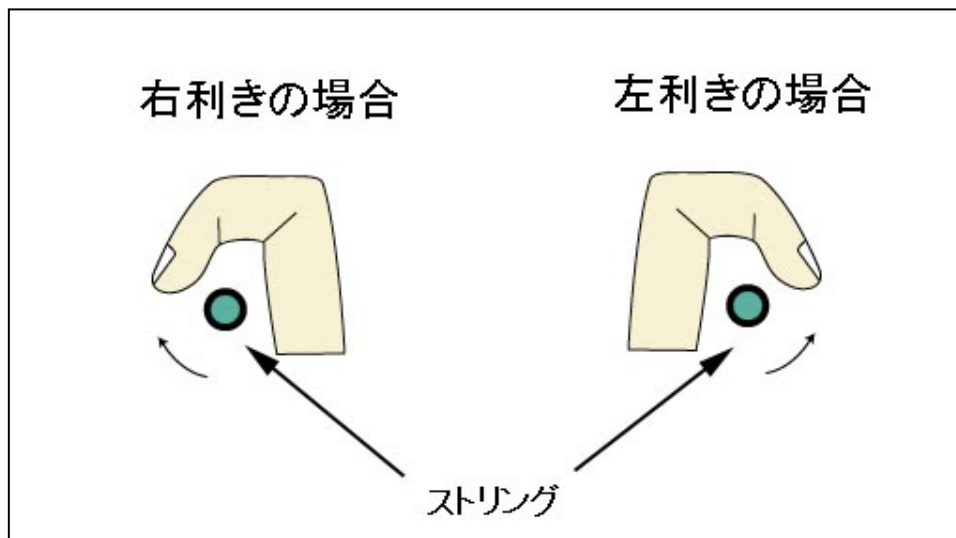


## ワンポイント知識（ストリング編）

### ストリングのツイスト方向

ストリングは正しい方向にツイストする必要があります。

右利きのアーチャーの場合は、上からみて時計方向に、左利きの場合は反時計方向にそれぞれツイストして下さい。



リリース時には図のような回転運動がストリングに与えられます。

この時、ストリングが締まるような方向にツイストされていないとサービングが緩んだりストリングが切れやすくなってしまいます。

### ストリングの寿命について

ストリングの寿命は、使用環境にもよりますがだいたい3,000～4,000射と考えてください。（一般的なファーストフライトストリングの場合）

例え、ストリングを構成している糸が切れていなくても弾力は失われています。

弾力を失ったストリングを使用しているとアローに十分なパワーが伝達されないため、パラドックスが正確に発生せず矢飛びが乱れたり、失速の原因になります。

これでは、高度な的には望めません。

アウトドアでシュートされる場合、紫外線の被曝により寿命は更に短くなりますので注意が必要です。

ストリングワックスを薄くぬってメンテナンスされることをお勧めします。

## ノッキングポイントの付け方

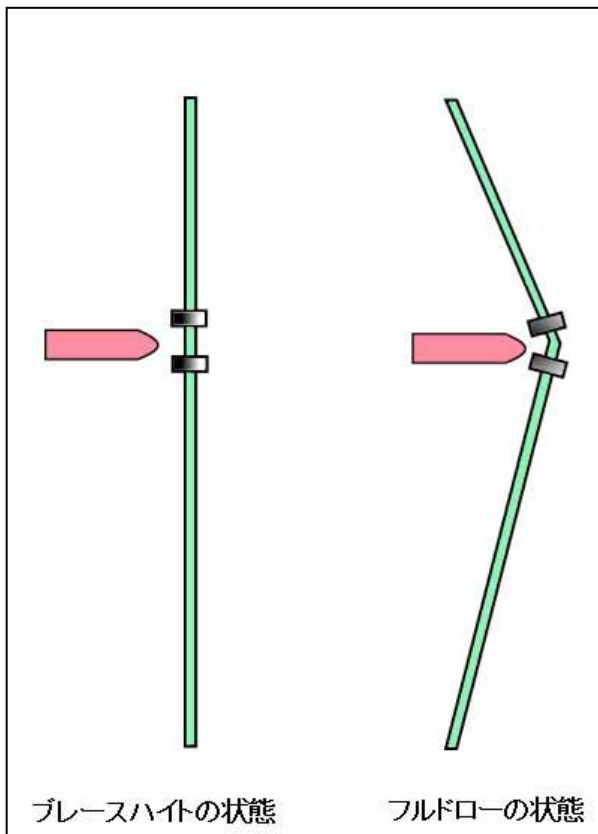
ノッキングポイントは、ストリングがアローを真っ直ぐに押し出す位置にセットする必要があります。

アローをつがえる位置が弓の中心より上にあるため、力の方向を補正する意味で水平よりやや上にセットされるのが普通です。

この位置は、上下リムのバランスやアーチャーの取りかけのバランスなどにより変化するもので特に決まった位置はありません。

チューニングの第一歩は正確なノッキングポイントの位置を見つけることから始まります。ノッキングポイントは上一個所のみでも充分なのですが、不安な場合には、2点をセットしても差し支えありません。

ただし、上下2点でつける場合には2点の間をあまりきつくしないようにして下さい。



あまりきつく作ってしまうと、フルドロの時にノッキングポイントの間隔が狭くなるためノックにストレスがかかってしまいます。

ノックにかかるストレスは、アローのレストダウンやアップ、レストやノックの破損の原因になります。

ブレスハイトの位置では緩めでも、フルドロの時にぴったりになるような間隔を見つけることをお勧めします。

ストリングの太さと、ノックのみぞのサイズが合わない場合にはノックをつがえる位置に細い糸を巻いたりして調整してください。

ストリングが太すぎる場合にはセンターサービングをより細いものに巻き直す必要があります。

